

## 第 25 回精華町環境推進委員会 会議録

|                   |     |   |      |     |
|-------------------|-----|---|------|-----|
| 会議名               |     | 第 25 回精華町環境推進委員会  |      |     |
| 開催日時              |     | 令和3年 11 月 10 日(水) 14:00～16:30   |      |     |
| 開催場所              |     | 精華町役場 図書館集会室  |      |     |
| 出席者               | 委員  | 上甫木委員長、岩本副委員長、畑中委員、寺本和生委員、寺本英樹委員(代理南部氏)、信田委員、鷹居委員、(敬称略・順不同)   |      |     |
|                   | 事務局 | 精華町 健康福祉環境部 岩前部長  |      |     |
|                   |     | 精華町 健康福祉環境部 環境推進課:竹島課長、奥村係長、佐藤 (敬称略)<br>(株)地域計画建築研究所(アルパック) :中川、齋藤 (敬称略)  |      |     |
| 欠席者               |     | 中筋委員、山本委員   |      |     |
| 傍聴の可否             |     | 可   | 傍聴者数 | 0 人 |
| 傍聴不可・一部不可の場合、その理由 |     |   |      |     |
| 会議次第              |     | <p>1. 開会あいさつ</p> <p>2. 議事</p> <p>① 今年度のスケジュールと取り組みについて</p> <p>② 精華町第2次環境基本計画について</p> <p>③ 精華町の環境(令和2年度分)について</p> <p>④ 精華町第2次環境基本計画の進め方について</p> <p>3. 閉会</p> <p>資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1 令和3(2021)年度スケジュール</li> <li>・資料2 精華町の環境(令和2年度分)、その概要</li> <li>・参考資料1 第24回精華町環境推進委員会会議録</li> <li>・当日配布資料1 第2次環境基本計画における定量目標と今年度の進捗状況</li> <li>・当日配布資料2 第2次環境基本計画における事業者との取組について</li> <li>・当日配布資料3 はじめよう未来をひらくクールチョイス(精華町版)</li> </ul> |      |     |

### 1. 開会

- ・健康福祉環境部長あいさつ

事務局 本日の委員会の成立については、過半数が参加し成立している。なお本日は、1名代理、2名欠席（中筋委員、山本委員）である。

また、会議の公開については、現時点で傍聴の申し込みは無い。  
<資料確認>

事務局 委員のみなさまの任期が令和3年11月13日までの任期となっている。町としては、引き続き皆様に委員をお願いしたい。

なお、公募委員については、一般公募にて、現在、広く募集している。それでは、以後の議事進行は上甫木委員長よりお願いします。

上甫木委員長 それでは早速、議事を進めたい。事務局から資料の説明をお願いします。

## 2. 議事

### ① 今年度のスケジュールと取り組みについて

- ・事務局が資料① 令和3(2021)年度スケジュールについて説明

上甫木委員長 今の説明に対して、何かご質問等ありますか。特になければ、次の議題「②精華町第2次環境基本計画」について資料の説明をお願いします。

### ② 精華町第2次環境基本計画について

- ・事務局が精華町第2次環境基本計画について説明

上甫木委員長 説明ありがとうございます。これまでの計画を踏襲しているが、市民の参画と協働や、精華町の特徴として、事業者との連携を重視しよう、またこれまでも環境日記等の形で子どもたちの取り組みを頑張っているが、さらに自然とのふれあいなどを進めるといった点がポイントとなっている。また1次計画の際は定量目標までは厳しいだろうということで、基本的な方針のみを設定した計画であったが第2次計画では、定量目標を定め、進化させたといえるだろう。

この件について、何か質問等あればお願いしたい。

信田委員 4つの目標像の中で定量目標が定められたのは良いと思うが、何のために取り組むのかという所が重要ではないか。

CO2については精華町で目標値が定められていない。京都府は家庭・業務・運輸・産業の4部門でそれぞれ2030年までにどこまで減らすかについて、目標を設定している。この京都府の目標を達成しようと思えば、各市町村でそれに見合った対策を立てて行き、目標を決める必要がある。2030年から2050年までの間に平均気温3度上昇すると言われていたものを1.5°Cに抑えるためにも、2010年度に対して2050年までに半減という話も出ている。京都府の目標そのものも少し甘いと思うが、とにかく目標が定められていることが重要である。京都府は、間接排出量で約20%が家庭部門から温室効果ガスが排出されており、その比率は全国の約5%よりも高い。精華町においても温室効果ガス削減の数値目標を掲げ、その大きな目標を達成するために何をするのかということが重要ではないか。また、精華町も目標を決めていくためにはデータを取って行く必要がある。

上甫木委員長      基本的な考え方としては信田委員のおっしゃるとおりかと思う。次の計画に向けた準備として、どういったデータ収集が可能なのか、あるいは既にどういったデータを蓄積しているのか等について、事務局いかがでしょうか。

事務局：竹島      地球温暖化対策というのは方向性としてはそのとおりかと思う。現状では、データの把握等はできていないため、すぐに具体的な数値目標というのは難しいが、今後検討していきたいと思う。

信田委員      京都府と話し合ってもらえれば、ある程度のデータがあるのではないかと思う。今年度に入ってから9ヶ月目を迎えている。前回の委員会の際は、そこまで逼迫している状況であると認識していなかったが、2030年に向けてこの9年間が非常に重要であると再認識している。これ以上の温暖化の進行は後戻りできないと考えており、少しでも反映したいと思っている。協力できる所は協力したい。

畑中委員      前回の議事録を見ると私がちゃんとお話している。排出量については、自治体によって事務の体制などもあるので、どの程度精緻に把握するか、松竹梅の3段階程度がある。一番簡単なのは、国が按分を出しているもので、まずはそれを用いることである。次に、分かる範囲のデータについてはそれを用いて少し精緻化する。一番難しいのは、モデルを作っていくということだが、一般的には電力のデータが自由化の関係もあり把握しづらくなっている。ただ、京都府については、伝統的に協定

等によって関西電力以外も含めてデータを入手していると聞くので、今でも最新のデータがさっと手に入るのではないかと思う。そのデータが使えれば、既存の按分と組み合わせて出せるのではないか。また事務局の方で確認してもらえればと思う。

また、2050年をどのように考えるかについてである。国ではエネルギー消費量を半分に落とし、かつ再生可能エネルギーを促進するという事になっている。実際にはすべての部門で同じ割合で消費量を削減するのではなく、産業部門以外は相当減らしたうえで、産業部門にエネルギーを回すかたちになるだろう。そうすると民生部門や運輸部門をかなり減らさないといけない。精華町は民生部門でのエネルギー消費が大きいので、かなり大変ではないかという印象を持っている。一方で、けいはんなで色々なチャレンジを行っている。国と同じ考え方に立つと、産業部門が少ないので精華町の場合はそれ以上の削減が求められることになるだろう。

上甫木委員長 大変重要な話であるので、他に意見などがあればお願いしたい。

信田委員 私の印象では国の方針は、今年もまた COP26 で化石賞をもらっているため、世界の基準からいくと国の方針がどこまで進んでいるのかと思っている。精華町の実態に合わせて目標を決める必要がある。国の基準のまま、精華町に反映させるという話は、産業構造も違うため、少し無理があるのではないかと思う。

畑中委員 この10年間は激動の10年間となるだろうと思っている。

上甫木委員長 見直しは5年目であるので、その時にという話もあるので、それに向けて準備を進めておくということもあるかも知れない。

畑中委員 温暖化の話は計画の見直しというよりも、追記するような話でも良いのではないかと思う。

上甫木委員長 参考資料的な扱いとすることも考えられる。住民の方にも協力いただいてデータ収集を行うなども考えられないか。

信田委員 そう考えると今のスケジュールでは回数が少ないのではないか。現状把握だけでも早めにしていければと思うが。

上甫木委員長 今年度のスケジュールは案のとおりとして、来年度に反映できれば良いのではないかと思う。データ収集の時期等にもよると思うので、事務局でご検討いただきたい。

事務局：奥村 今年度の事業に反映するのは少し難しいと思うが、来年度は少し早めに委員会を開催するなどし、現状報告を行うというような形で進められればと思う。それも含めて検討したい。

上甫木委員長 それでは今年度は、このスケジュールで進めるということでもよろしくお願ひしたい。

概要版については特に説明がなかったが、これは全世帯に配布しているのか。

事務局：竹島 全世帯への配布まではしていないが、町のホームページでの公開及び窓口で配布している。

上甫木委員長 それでは、次に「精華町の環境（令和2年度分）について」事務局より説明をお願いしたい。

### ③ 精華町の環境(令和2年度分)について

#### ・事務局が資料② 精華町の環境(令和2年度分)、その概要について説明

上甫木委員長 説明いただいた内容について、お気づきの点や質問などがあれば、お願ひしたい。

信田委員 2ページの目標像の進捗状況については、やはり目標値が決まっていないので、こういった抽象的な表現になると思う。新しい第2次環境基本計画では、数値目標が設定されているので、次からはしっかり評価が出来ると思っている。数値目標があれば、PDCAのチェックとアクションが可能となるため、結果に対してどう対応するのかということが考えられると思う。例えば、ごみの排出量が少しずつ増えてきている、それについてどうして行くのかなども考えて行く必要があると思う。

事務局：竹島 おっしゃるように、町の中でも、PDCAのチェックまではできているが、アクションができていないというのは課題になっていると

認識している。今回は、1次計画の最後の報告となるため、このままでと思っているが、新しい報告のフォーマットでは、様式を含めて全体的に見直して、アクションが書けるようにしたいと思っている。

上甫木委員長

いまの信田委員からの指摘は、9ページに委員会の評価と町の対応のページがあるのでそこで今後の課題として指摘しておけば良いのではないか。

鷹居委員

数年前に大雨が降り、駅のコンビニのあたりが豪雨で浸水したことがある。環境基本計画には、災害の話が含まれていないが、そのあたりは、ここでは書かないのか。環境委員会がしていくことでは無いのか。

事務局：岩前

その部分については、防災の範疇となる。精華町では危機管理課が担当となり、計画も作成しており、環境基本計画の対象にはなっていない。

事務局：竹島

気候変動の部分は環境であるが、実際に降った大雨に対してどのような対策を取るのかについては防災となる。

鷹居委員

先日の静岡県の盛土崩壊による土砂災害などがあったが、そのあたりについてはどうか。精華町内にも光台などに開発途中の土地などがあるが、調査は行っているのか。

事務局：竹島

それについても開発関係の部署が担当となっている。環境はすべてに関わってくるが、細かい点については各担当課の所管となっている。

鷹居委員

それでは、静岡県の事例と全く違う造成を行っているということか。

事務局：岩前

その通りである。

鷹居委員

ならば、安心した。

上甫木委員長

鷹居委員の言う通り環境問題は横断的に関わって来るので、全く

関係ないということではないと思う。ただ、防災対策は他課の所管となる。例えば、災害に対して強い山にしていけないといけない、などとなると生物多様性なども関わるので環境部局も関わって来る。

岩本副委員長

自治会の立場としては、防災がやはり大切で関心が高い。環境推進の話からは少しずれるが。これから防災というのは、環境推進だけの話ではなく、議員や消防との関わりも非常に重要と思っている。防災では、高齢者や要支援者などの避難などについても考えていくことが非常に重要と考えている。

全般的に数値目標がないため、抽象的な表現となっている。例えば、ごみについては、2020年度や2021年度は増えると思う。コロナ禍の巣ごもりの関係で、粗大ごみも増えていると実感している。そういった内容も評価の要点に上げてもらえれば現状が見えて来るのではないか。

上甫木委員長

4ページのごみ量については、グラフには反映されていないと思う、現状等について評価してもらえればと思う。

事務局；竹島

ごみのデータについては、ご指摘のとおり、燃やすごみや粗大ごみについては、令和元年度と2年度を比べればかなり増えている。特に粗大ごみは年間の総量で60トン程度増えており、収集日には各地域で溢れかえっていた。委員のおっしゃるとおりコロナ禍の巣ごもりでみなさんが家を片付けた影響だと思う。

信田委員

4ページのごみのデータについては、家庭の燃やすごみだけでなく、全てのごみが入っているのか。

事務局：竹島

そのとおりである。

上甫木委員長

ここに数字までは載せにくいと思うが、全体の構成を入れた方がより分かりやすくなるのではないかと思うので、ご検討いただきたい。

南部代理

先ほどPDCAの話があったが、Aが出来ていない取り組みとしてコロナの影響でできていない部分があるとすると、その原因は何か。コロナが今後収束していく中で社会の対応として、生活や仕事

のやり方も変化して行くと思われる。そうなった時に、どう対応していくのか考えて行かなくてはならない。例えば「これが出来ていない」のは、「これが要因」であると分かれば、次の対応も考えられるのではないか。難しい所もあると思うが、ある程度数字で出す事により、ステップや方向が明らかになるのではないか。

上甫木委員長            取り組みを現課にヒアリングしていただき、結果について、なぜそうなったかまで原因や要因などヒアリング等を行っているか。

事務局：奥村            要因分析まではできていない状況で、ひとまず現状把握にとどまっている状況である。

事務局：岩前            昨日職員研修があり、町としても施策全体がPDCAのA、改善がなかなかできていない、行きついていないという話があがっているため、環境だけに限らず、他の部署でもなっているため、取り組んでいきたい。決算等でも「実施した、課題がある」までの話が多く、それをどう解決するのか、次年度に向けて事業や予算を準備できていないことも多く、町としての課題となっている。事業数が多いと、そこを踏まえて次年度の改善に繋がっていかない。予算にどうつなげていくのかというのがうまく行っているものばかりではない状況である。

上甫木委員長            環境分野については、今後、これまでの取り組みを数値で把握できるものもあり、定性的なものについても要因分析につなげるような年次報告書のフォーマットにしてアクションにつなげていければと思う。

寺本和夫委員            本日の話の中で、評価できる部分について意見を述べたい。目標については、国の目標などに合わせて無理に目標を立てなくてもよいのではないか。環境問題に対する取り組みというのはもっと現場で起こっていることをどのように変えていくのか、毎日の生活の積み重ねの中にあると思う。取り組み自体をすることが目標となってしまうことが問題となってしまうのではないか。まずは、今回の数値目標を立てたものについては吟味してそうなったと思うので、特にこの部分について具体的に取り組んで評価して、次に繋げるようなことができれば、良いのではないか。まずはしっかりこれを実施するということができれば、結果的に国の目標等に



沿ったものになっていくのではないかと思う。せっかく計画をこのメンバーで作って来たので、「これをやる」という所に力を注ぐべきではないか。

畑中委員

この規模の町で、ここまで PDCA が回っている所は全国見回しても中々無いと思う。確かに A が弱いと言うのはあるとは思いますが、日本は民主主義の国なので、最後は、民意で首長さんが判断する。声をあげていくことで、議会経由などで議論につなげていくものだと思う。なかなか行政機関だけでそれをやるのは限界がある。

上甫木委員長

環境日記の取り組みを実施し始めて、8年経過しており、当初に経験した人はもう大学生になっている。子ども達が大きくなっていく事で人的財産は出来つつあると思っている。これは非常にプラスの評価としてあるのではないか。私はこの部分に期待している。

家事に関わる取り組みもごみの分別や、水キリなども手間がかかるがチャレンジしている。そのような取り組みも精華町らしい部分ではないか。今回数値目標を作った。寺本委員が言われたようにこれを手がかりにして、出来る事を着実に進めて行くことが重要ではないか。これ以上、手を広げると、やはり大変ではないかとも思う。いずれにしても、今回の評価については、次の PDCA を回すための方向づけが出来るようにまとめてもらえればと思う。

畑中委員

先ほどの水害等の話について、確かにそれも気候変動のシナリオからも言えることだが思うが、もう一つは夏の暑さだと思っている。お年寄りの熱中症など、リスクが高くなっている。環境の範囲となるかどうかはある。気候変動の影響として、別の意味の災害として、また真夏に電気が止まるなどの話も含めて対応を考えておく必要があると思う。

もうひとつ、NHK の番組で先日「グレートリセット」という番組があった。行為別の脱炭素の実現に向けた削減効果に向けた対策の効果について、世界中の研究者が評価したリストを取り上げていた。その中で効果が高いものとして、1番がフロン系などの冷媒である。2番目は陸上風力発電。3番目にあがっていたものが、食品ロス対策であった。また、4番目は肉を食べないという対策になっていた。フランスでは、肉を食べない日を作って取り組んでいる。給食で肉を食べない日を作るという話もあった。これは精華町でもできるのではないかと思う。

信田委員 関連して、今年のせいか祭りはオンラインになった。精華町環境ネットワーク会議でも気候変動に関する動画を作成した。是非見てもらいたい。精華まつりでは3分にまとめるようにと言われたが、とても足りず、なんとか6分にまとめた。その基になっている15分版のノーカット版はインターネットで見ることが出来る。精華町の広報ページからリンクされているので、ぜひご覧いただきたい。学生の協力を得て分かりやすく制作した。

上甫木委員長 他はよろしいでしょうか。それでは、次の議題である「精華町第2次環境基本計画の進め方」について、事務局より説明をお願いしたい。

- ④ 精華町第2次環境基本計画の進め方について  
・事務局が当日配布資料「第2次環境基本計画における定量目標と今年度の進捗状況について」、「第2次環境基本計画における事業者との取組について」について説明

上甫木委員長 ありがとうございます。まずは、目標の定量目標の進捗状況の方からご質問ご意見等があればお願いしたい。

岩本副委員長 2番目の給食での地場産物の年間利用件数について、量のほうが捉えやすいという説明であったが、それであれば、目標値を変えたほうがよいのではないか。

事務局：奥村 回数は把握できるが、原課との調整の結果、同じ日の給食に2件入っていることもあり、数え方が難しいという話だった。

畑中委員 こういった指標はあまり難しく考えずに、分かるもの、拾えるものを拾えば良いと思う。食材ごとにわかるというのであれば、生データをデジタルオープンデータで出してしまうというのも面白いのではないか。

鷹居委員 私としては、回数や量よりも、町内の農家の内、どれだけが出荷しているかの方に興味がある。

畑中委員 それは非常に良いと思う。

事務局：岩前                    その点については、農協の直売部会がとりまとめをし、そこから町内の出荷可能な農家への振り分けをしているので、把握はそれほど難しくはないと思う。

岩本副委員長                    私も直売所に出荷している。今年の4月に食品衛生法が改正になり、今まで曖昧だった加工の概念が厳格化した。それをクリアしなければ出せない状況になっている。例えば大根を洗うことも加工になるのか等の影響もある。農家が直接出すのか、それとも一旦、どこかでまとめて営業として出すのかによって大きく変わって来るようである。いずれにしても、回数よりも量の方が捉え方としてふさわしいのではないか。

事務局：岩前                    確かに食品衛生法によって、営業届などを出さないといけなくなってきている。その届け出を出そうと思うと、食品衛生責任者の講習を受けないと出せないという話もあると聞いている。今まで、保健所への書類提出のみで済んでいたものが、講習を受けて修了しなければ出せない状況になっている。それが億劫であれば、みな「やめとくわ」になると思う。よって直売所などの出荷量や品目、出す人が減って来る可能性もある。

岩本副委員長                    農家の高齢者が主に取り組まれているが、保健所はネットで申請を出せと言っており、高齢者の農家がそれに対応できるのかという問題もあり、どんどん出荷される方が減って行く可能性が高い。

畑中委員                        どのようなデータを集めるのかと言った点において、岩本委員の視点は重要だと思う。

事務局：岩前                    許可を取っている所を通して出荷等ができれば良いが、いまは直売所と農家個人が直の取引になっている等も課題かもしれない。

上甫木委員長                    ここは少し、入手できるデータの検討も含めて考えられればと思う。

事務局：岩前                    学校給食や保育所給食の地産地消については、どこの自治体も比率を上げたいと思っていると思う。ただ、需給バランスの問題、価格の問題などもある。例えば、精華町の特産品いちごについては、

保育所でもいちごの時期に子ども達に食べさせてあげたいと聞いているが、旬の時期は価格が高く難しい。時期の終わりかけの頃に子ども達がいちご摘みをさせてもらっている。旬の時期でなければ、味も落ちるので、食育と言う面ではどうだろうという話もあり、痛しかゆしの面がある。

畑中委員 規格外の商品などでも良いのではないか。

事務局：岩前 そうなると今度は、栄養士的には量が管理できるかと言う話になって来るようだ。

畑中委員 大阪の泉州では、予算は人口割で学校ごとに分けられており、調達は学校ごとに行っている。そうなると、学校近隣の農家が地元小学校に寄付し、地元で農家が無い所では購入価格が高くなる。メニューは同じなので学校によって品質のばらつきが出てくることもある。地元の農家はけっこう寄附で学校に野菜を持って来ているとのことである。

事務局：岩前 地元で出来ているものを食べるのは一番安心である。安心安全の面から子どもにとっても保護者にとっても良い。

岩本副委員長 やはり問題は安定供給である。

事務局：岩前 その通りで、「これだけ欲しい」と言うと「出来ない」、「事前に言っておいてくれたら作るわ」などあり、そうなるとまた価格面で合わない。色々あって、やりたいけど出来ない状況である。

畑中委員 今話を聞いていると、木材と全く一緒である。森林環境贈与税関連で公共建築を木質化したいが、安定供給や価格の問題で上手く繋がらない。やはりそれは仕組みで解決するべきであろう。

寺本委員 食べている子ども達には、「これは町内でこの人が作った野菜です。」という事は伝わっているのか。

事務局：岩前 取り組んでいる。実際に取り組んでいる小学校や保育所では「このおじさんが、この大根つくらはってんで」と一緒に給食を食べてもらうなどして取り組んでいる。

上甫木委員長 非常に良い取り組みである。

事務局：岩前 子どもたちも自分で世話した野菜は嫌いなものでも食べる。その辺りは教育の面にも結び付いてくる。保育所は食育には力を入れており、どの園も畑や菜園活動や稲刈りを行っている。

畑中委員 SDGs 的にも色々な目標に結びついている。

上甫木委員長 それ以外の項目についてはいかがか。

畑中委員 ②生物多様性・安全の項目で定量目標に「子ども達が里山や田畑に触れた件数」とあり、10年後の目標値が「全生徒が触れること」となっているが、これはどういったものか。

上甫木委員長 そもそもデータはどうやって取ろうと考えていたのか。

事務局：中川 補足をさせていただくと、計画策定時の経緯では、子ども達にアンケートをした際に、精華町に住んでいても住宅街に住んでいると「どこで自然に触れましたか」と言う問いに対して「近所の公園」などの回答が見られた。田畑や農地に行っていない地域ごとの違いが見られた事が発端となって整理している。また、議論の経過で「小学生は学校で田植えや色々な体験をしている」という議論があった。全生徒については、学校で田畑や農地での体験があったかどうかを確認するようなイメージである。

上甫木委員長 学校に協力していただいて、アンケートなどを子どもたちにするイメージなのか。

事務局：中川 まずは小学校の総合学習など授業の中で取り組まれているかどうかを確認し、次のステップとして可能であれば、それ以外の機会でも取り組んでいるかどうかを把握できればと想定していた。

上甫木委員長 総合学習や環境 NPO などでの取り組みから把握した数値ということか。そのような時代かも知れない。自然を体験する術を知らない、と言うのが今はほとんどである。残念ながら遊びの中で体験する機会が無い。このあたりは、「どこで」や「なにを」などについて

も把握していただければ、後の対策を考える際に有効であると思う。

他はいかがでしょうか、先ほど説明にあった③資源・気候変動の定量目標「資源・気候変動に関する情報発信」について、どこまで含めるかについてはいかがでしょうか。現状についてもう一度ご説明いただきたい。

事務局：奥村

かっこの内数とそれ以外の違いについて、殆ど無いように思う。資源についてもエネルギー資源であると前任から聞いている。何処に入れたら良いのか詰め切れていない所があるので、ご意見を頂戴したい。

事務局：中川

経過について補足説明すると、元々は気候変動、再生可能エネルギーと情報発信であったが、昨年度の議論の中で「ここに関してはエネルギーだけではなく、廃棄物の関係の情報に少しでもどれぐらい情報発信しているのか把握した方が良いのではないか」という意見があり、資源・気候変動・エネルギーとなった。また、廃棄物に関する情報は沢山出ているが気候変動・エネルギーに関する情報については出ていない。重要な項目ではあるので、かっこ書きとして特出ししている形になっている。そのため、目標の上の20件はエネルギーに限らず③の項目すべてに関するもので、下の5件は内、エネルギーに関するものはどうか、というものである。

上甫木委員長

事務局の中でどこをどう捉えるかについて、また確認・調整しながら進めてください。

事務局：奥村

はい。

岩本副委員長

今の資源・気候変動に関する質問であるが、事業所向けの情報、家庭向け情報はそれぞれあると思う。両方併せて目標20件、町から情報提供するということなのか。

事務局：中川

これは情報発信なので、町から事業者向け、家庭向けに限らずということで当初は想定していた。

岩本副委員長

それは細分化することは可能なのか。

事務局：岩前                   それは可能であると考え。目標としては、対象を想定した内訳は設定していない。

岩本副委員長                とすると、我々はこのクールチョイスのパンフレットを見て何を考えればよいのか？

事務局：竹島                家庭や事業所での今後の取り組みの参考にさせていただきたい。また、町内の取り組みを住民に知ってもらう目的もある。町から企業に対して「こんなことしてください」というより、逆に教えていただいて、なるほどこんなことに取り組んでいただいていると住民に知っていただき、身近かに感じてもらうことを考えている。

上甫木委員長                誰に対する情報発信なのかということも、後々のために把握しておいても良いかも知れない。

事務局：奥村                把握するようにする。

信田委員                    この委員会の場合だけでも良いかも知れないが、このように数字を出された時に、どのような情報発信を行ったのか、具体的にどんな内容だったのかエビデンスが必要となって来るのではないかと。

事務局：岩前                当然、質問として出てくるのが想定されるので、質問される以前に提供させていただけるように準備したい。

上甫木委員長                またお気づきのことがあれば、事務局までお伝えさせていただきたいと思う。次に事業者との連携について議論したい。ちなみに主な取り組みの項の1つ目に上がっている次世代を育むプロジェクトについては、第2次環境基本計画の22ページにも取り組みイメージについて段階的に取り組んでいくイメージで掲載されている。

南部代理                    直接環境にということではないかもしれないが、まちづくり協議会は現在25社が参加しており、1週間に2～3回一斉配信でみなさんに情報を出している。そのような中で企業間同士の繋がりもできていると思っている。何かあった時に関係者が集まって話をしようということにもなっている。例えば、生徒さんの理解に役立つのではないかとということで、先日の理事会で体験学習や工場見学について話が出て、教育委員会等にもお聞きし、来年度のスケジュール

等を確認し協議会の加盟会社に参加してもらえるよう動いている。環境の話も「会社ってこんな風にやっているよ」という事がどこかでお話できれば、少しでもお役に立てるのではないかと考えている。

信田委員

まちづくり協議会に参加している企業は情報伝達がうまくいっていると思うが、それ以外の大きな研究所や国会図書館、その他の商業施設なども含めて先ほどのCO2削減量の話でもデータ集めをやらないといけないと思う。そのあたりをどういうふうに情報を集めるのか等、考えないといけないことではないのではないかと考える。

南部代理

パナソニックさん等、大きな会社は別の協議会があり十数社が入っていてそこで連携を取っているようである。まちの商店などについてはどのように把握するか、商工会に入っておられるかもしれないが。そのような流れでつかんでいくのかと思う。どこかに入っていく中で情報が伝わって行くと良いと思う。

信田委員

大きな会社は組織として全社でSDGsに取り組み、また、CSRの観点で取り組んでいると思う。しかし、全社としてはそういった情報があるかも知れないが、そのデータを精華町にも挙げていただく、そういう話をしないとイケないのではないかと考える。

寺本和夫委員

商工会としては中小企業者も対象としており、大手の企業のみ特別にということはないと思う。精華町の中小の一般の事業者さんはそこまでCO2を排出していないと思う。家庭と同じレベルと考えても良いように思う。情報を伝達する手段としては、例えば、月1~2回、会員に全件配信をしているので、その中にこのような情報を入れることは可能である。紙ベースのものもお送り出来ると思う。逆に商工会の取り組みについてもこのようなパンフレットの中に入れて紹介いただければと思う。現状では企業はまだまだ精華町の環境について意識していない所もあるので勉強も必要である。

畑中委員

2つの話があって、まずはコミュニケーションの場が必要であろう。それが出来れば、瓢箪から駒のように「これ一緒にやろうか」という事が必ず出てくる。もう一つは中小企業の環境の取り組みをどう考えるのかという事である。前段の話はそんなに難しい事では



無く、意見交換・情報交換の場をセットすると必ずそのような話が出てくる。こんなことに苦労していますという話をすると、必ず連携出来る所が見えてくる。

事務局：竹島

事業者さんについては、接点もあまり持っていないので、どんな所から入って行けるのか、また商工会さんなどと相談させていただきたい。

上甫木委員長

委員会の場合だと回数も少なく限られているので、本日挙がっていたような具体的な取り組みの内容については、個別に相談いただき、出来るものがあれば、進めていただければと思う。

畑中委員

昨日の兵庫県の会議は1社10分くらいでプレゼンしていただくような機会を設けた。こういった方法であれば、参加されている事業者の取り組みや課題などをみんなで共有しやすい。

また、これからマイカーも厳しくなってくると思う、企業にとっては運輸部門の話もテーマとしてあげておいても良いのではないか。

上甫木委員長

本日出た具体的な取り組みについては、個別にどんどん進めていただければと思う。

事務局：竹島

情報発信等の話もあるので、個別に連絡を取らせていただきたいと思いますので、みなさまよろしくお願ひしたい。

信田委員

前回2月に行った会議録が先日やっと来た。見返すと自分が何を話したのか全く分からないような記述になっている部分もある。これでは納得できない。少なくとも議事録はひと月以内には送っていただかないと見返しが出来ない。私は前回色々と言ったが、そこが全く反映されていないと思う。正直こういう会合に出るのは、これが3回目だが、10年ほど前の総合計画、今回も総合計画や環境基本計画で色々意見を出しているがほとんど対応がされていない。それでは熱心に参加する気にならない。今回も案内が届いてから、ほとんど日が無く、資料を検討する時間も無い中で会議があったので、そのことも考えて運営していただきたいと思います。

上甫木委員長

議事録については、会議終了後、速やかにみなさんにお送りいた

だき、進めていただきたいと思います。それでは事務局にお返します。

事務局：竹島

本日はありがとうございました。議事録については公開前の事前に各委員にご確認いただく手順となっており、各委員の意向も踏まえた最終版をホームページに掲載している。記載内容に不備があったとしたら申し訳無かった。また、今回の会議資料の配布も遅くなったことをお詫びする。本日の会議録もできるだけ早くご確認いただき、ホームページで掲載したい。我々事務局については、本日参加の限られたメンバーで行っており、気づかないことも多々あると思う。このような場でご指摘やご意見を頂戴するのはありがたいので、引き続きよろしくお願ひしたい。

本日いただいた意見を踏まえて、計画が絵にかいた餅にならないように、引き続き進めて行きたい。冒頭にお伝えした通り、皆さんの委員任期が11月13日で切れるが、また、引き続きこの任に就いていただければと思いますので、改めてよろしくお願ひしたい。

以上をもちまして本日の委員会は終了させていただきます。ありがとうございました。

### 3. 閉会